

おわりに

私たち第五期武蔵野市サラリーマン会議の委員は、公募の委員6名と事業所推薦の委員4名で構成された。当初は、自ら市報を見て応募した公募委員と市内の事業所から推薦された委員の間では、参加意識の面で多少温度差があったが、施設見学を終了した時点で委員の一体感が形成された。

限られた時間の中で市政に関する様々な問題について話し合い、必ずしも議論をし尽くしたとは言えない面もあるが、会議の設置当初は8回程度の開催が予定されていたが、最終的に10回の開催となったのも、皆のこの会議に対する思い入れの強さの表れである。

メンバー構成は、企業人という一点は共通するが、業種も立場も年齢も、問題意識も様々な寄り合い所帯であったので、提言の取りまとめ方としてはじめに各人が関心を持っているテーマを出し合い、討議しあうところからスタートした。そして、討議を重ねるうちに、やがて大きな5つのテーマに収斂していった。

また、提言の執筆にあたっては、4人の委員が分担する形を取った。内容はすぐには実現できない事項から比較的实现性が高いものまで様々であるが、基本的には企業人としての立場から、武蔵野市が全国の市町村の先頭に立って先進的施策を率先して展開し、将来的には望まれる未来社会のビジョンを「武蔵野モデル」として具体化して、活力ある地域社会づくりの雛形として、モデルになって欲しいとの思いを込めたものとなっている。

最後に、市ではこれからもこのような形で市民参加の場を設けていただくとともに、この会議を通じて得難いメンバーに知り合えたこと、そして、多少なりとも武蔵野市政に参加できたこと、市政に対する認識が深まったことを感謝して結びとしたい。